國學院大學学術情報リポジトリ

出張報告 「International Workshop “The Idea of Antiquity in Modern Japanese Religious Culture”」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000581

出張報告
「International Workshop “The Idea of Antiquity in Modern Japanese Religious Culture”」

2019年11月１日に、ハーバード大学ライシャワー日本研究所において行われた国際ワークショップ「The Idea of Antiquity in Modern Japanese Religious Culture 近現代日本の宗教文化と「古代」」に参加したので報告する。なお、本ワークショップは日本文化研究所と、本学古事記学センター、ハーバード大学ライシャワー日本研究所の共催として開催されたもので、ハーバード大学側の調整についてはヘレン・ハーデカ先生にご尽力頂いた。

ワークショップの趣旨としては、近現代の日本の宗教文化における「古代」イメージを問うというものであり、近代化が推し進められつつある日本という場において、どのような「古代」像が想像・創造されていったのかに焦点を合わせた議論が行われた。以下に四名の発題者とその題目、また指定討論者を挙げる。

・平藤喜久子（日本文化研究所所長）「神の姿にみる古代と現代 The Idea of Antiquity and Modernity in Depiction of Deities」。指定討論者：ジョリオン・トーマス Jolyon THOMAS（ペンシルベニア大学）
・遠藤潤（本学教授、日本文化研究所兼担教授）「平田国学における古代の神のリアリティ―近代に向かって― The Reality of Ancient Kami in Hirata Kokugaku: Toward Modern Japan」。指定討論者：アン・ウォルソール Anne WALTHALL（カリフォルニア大学アーバイン校）
・星野靖二「日本宗教史の叙述と「古代」―宗教学の展開との関連において The Narrative of the History of Japanese Religions and ‘The Ancient’ in the Development of Religious Studies」。指定討論者：林かおる（テキサス州立大学、ライシャワー日本研究所ポスドク研究員）
・齊藤智朗（本学教授）「造化三神をめぐる神学の構造と展開 Theological Frame and Evolutions in the Conception of the Three Creator Deities」。指定討論者：トレント・マクシー Trent MAXEY（アマースト大学）

平藤所長は、神の姿がどのように描かれてきたのかを時代を追って確認し、特に近代において古墳時代風に「古代」の神を描くことが行われたことを指摘した上で、「古代」が新たに想像され続けてきていることについて論じた。

遠藤教授は、平田篤胤においては世界を生成した神代の神々が、今なお世界に関わり続けているとされており、その「古代」のリアリティーとの関連において平田の奇談に対する関心を捉えることができるとした。

星野は、姉崎正治の日本宗教史の叙述において、同時代の古代史研究があまり参照されておらず、「古代」が非歴史的なものとして叙述され、そこに日本人の精神性の本質が示されているとされていたことを指摘した。

齊藤教授は、大教宣布運動において、「古代」を宗教的に読み替える形で、近世の平田国学をベースとした造化三神を中心とした統一的な神道神学が組み上げられたことについて述べ、しかし祭神論争を経て、それが否定されたことについて述べた。

全体を通して、日本宗教に関心を持つ北米の大学院生、研究者の参加を得て、有益な議論を行うことができた。　（星野靖二）